

2014年度 自己点検・評価における全学的課題事項について

◎はとりまとめ組織、○は検討・連携組織

基準	評価項目	2014年度 全学的課題事項	課題への対応	
			対応組織	改善の方向性
【基準1】 理念・目的	(宗教部) ■評価項目No.102 建学の精神が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されていますか。	前年度努力課題となった評価項目102に対する改善計画では、2013年度中に「建学の精神」「ブランドコンセプト」などに対する認識について、学生部や学長室が実施している調査結果等をもとに実態について把握する。(～2014年3月末)となっていたが、現状説明では確認できないので、改善されていないと判断せざるを得ない。【努力課題】	◎学長室 ○宗教部 ○学生部	学生の「建学の精神」「ブランドコンセプト」などに対する認識について早急に実態を把握し、それぞれの浸透策を検討する等、引き続き、学長室と宗教部、学生部が連携して取り組む。 【2013年度からの継続課題】
【基準4】 教育内容・方法・成果	(教学部) ■評価項目No.413 学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針は構成員(教職員及び学生等)に周知され、社会に公表されていますか。	DP、CPにおける領域・観点等の区分に教養教育科目と専攻科目がどのように対応しているのかという点や、DP、CPの関係性については、依然として学生にはわかりにくいものとなっており改善されていない。【努力課題】	◎教学部 ○教養教育センター	2012年度からの全学的課題事項として、現在、当該組織である教学部が継続的に取り組みを行っている。引き続き、教学部と教養教育センターが連携して取り組む。 【2012年度からの継続課題】
	(教学部) ■評価項目No.421 教育課程編成・実施の方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	導入している制度・手法と、順次性や系統的履修といった教育効果の考え方がリンクしていないように思われる。導入している「グレイドナンバー制」と「配当年次」(配当セメスター含む)の具体的な基準(科目配置を決定する指標)等について、DP、CPの内容との整合を示しながら、明確にする必要がある。【努力課題】	◎教学部 ○教養教育センター	教養教育センター設置や国際文化学部の移転、農学部の新設を契機として、教務会議等で審議する等、教学部と教養教育センターが連携して発展的に取り組む。 【2013年度からの継続課題】
	(教学部) ■評価項目No.431 教育方法および学習指導は適切ですか。	認証評価の結果、努力課題となった「全学部の履修登録上限について、学部によってその取り扱いが異なるが、例外事項が多く随意科目以外にも卒業研究・卒業論文や特定の専攻科目がその対象外となっているので、単位制度の趣旨に照らし、改善が望まれる」点についても、単位制度の実質化の観点から早急に検討を開始していただきたい。【努力課題】	◎教学部 (各教学責任主体)	教務会議等で審議・調整し、各教学責任主体にて取り組む。
	(教学部) ■評価項目No.442 学位授与(卒業認定)は適切に行われていますか。	認証評価結果において努力課題となった「全研究科の博士後期課程において、修業年限内に学位を取得できず、課程の修了に必要な単位を取得して退学した後、在籍関係のない状態で学位論文を提出した者に対し課程博士として学位を授与していることは適切ではない」ことについては、早急に改善する必要がある。【努力課題】	◎教学部 (各研究科)	大学院運営委員会等で審議・調整し、各研究科にて取り組む。
【基準5】 学生の受け入れ	(教学部) ■評価項目No.503 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していますか。	「一部研究科の未充足問題」について、改善に向けて引き続き改善・実行する必要がある。【努力課題】	◎教学部 (各研究科)	2011年度からの全学的課題事項として、現在、当該組織である教学部が継続的に取り組みを行っている。引き続き、教学部と各研究科が連携して取り組む。 【2011年度からの継続課題】